

GROUP GUIDE

阪急阪神ホールディングス **2019**



阪急阪神ホールディングス株式会社
<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/>





中期経営計画を着実に進捗させ 長期ビジョンの実現につなげてまいります

阪急阪神ホールディングスグループは、2006年10月に阪急ホールディングスと阪神電気鉄道との経営統合によって誕生しました。それ以降、阪急阪神が力を合わせて各事業の競争力を高めるとともに、グループ総合力を発揮することにより、グループ全体の収益力の向上や利益伸長を図り、並行して財務体質の改善にも取り組み、着実に成果を挙げてきました。

しかしながら、当社グループを取り巻く事業環境は、少子高齢化等の影響による沿線人口の減少や、技術革新の進展等に伴うライフスタイルや生活環境の変化に伴って、大きく変わっていくことが予想されます。そうした中でも、持続的に成長を志向する企業グループとなることを目指して、当社グループでは、一昨年に「阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025」を発表しました。そして、この長期ビジョンを実現するための具体的な実行計画として、昨年、2018～2021年度を計画期間とする新しい中期経営計画を策定しました。現在は同計画に基づいた施策を着実に推し進めており、今後ともこれらを積み重ねながら、長期ビジョンの実現に一歩一歩近づけてまいります。

このほか、当社グループでは、社会貢献活動や環境に配慮した事業活動の推進、コンプライアンスの重視、リスクマネジメントの徹底等についても、引き続きグループを挙げて取り組み、企業の社会的責任を果たしてまいります。

今後も、グループ経営理念を実現すべく、お客様や地域社会等との信頼関係を構築しながらグループ全体の成長を推し進め、関係する皆様方のご期待に応えられるようグループ一丸となって取り組んでまいりますので、これからもご愛顧とともに一層のご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2019年7月

阪急阪神ホールディングス株式会社

代表取締役会長 グループCEO

角 和夫

代表取締役社長

杉山 健博

グループ経営理念

使命

私たちは何のために集い、何をめざすのか

「安心・快適」、そして「夢・感動」をお届けすることで、お客様の喜びを実現し、社会に貢献します。

価値観

私たちは何を大切に考えるのか

1 お客様原点

すべてはお客様のために。これが私たちの原点です。

2 誠実

誠実であり続けることから、私たちへの信頼が生まれます。

3 先見性・創造性

時代を先取りする精神と柔軟な発想が、新たな価値を創ります。

4 人の尊重

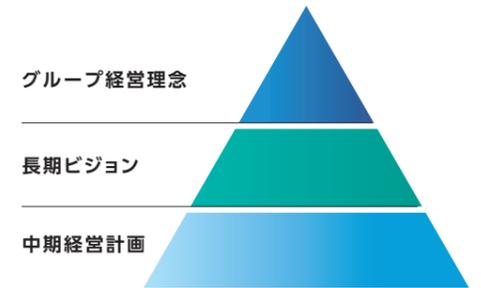
事業にたずさわる一人ひとりが、かけがえのない財産です。

長期ビジョン2025

当社グループでは、長期的にありたい姿とそれに向けて取り組むべき方向性・戦略を示すものとして「阪急阪神ホールディングスグループ 長期ビジョン2025」を策定し、2017年5月に発表しました。この長期ビジョンでは、阪急・阪神の経営統合から20年を迎える2025年度をターゲットにして、人口の減少や技術革新の進展といった事業環境の変化を見据えながら、事業エリアとビジネスモデル(ストック型事業^{※1}またはフロー型事業^{※2})という2つの基軸をベースに、4つの戦略を定めています。

※1 ストック型事業:土地建物等の固定資産を保有して営業活動を行う事業(鉄道事業、不動産賃貸事業、放送・通信事業、ホテル事業など)

※2 フロー型事業:大規模な固定資産を保有することなく、事業ノウハウ、人的資源及びブランド資産等を活用して営業活動を行う事業(不動産分譲事業、スポーツ事業、ステージ事業、情報サービス事業、旅行事業、国際輸送事業など)



スローガン

深める沿線 広げるフィールド

持続的な企業価値の向上

生活(顧客)価値の向上

社会価値の向上

経済価値の向上

戦略1 ストック型事業(梅田・沿線)
関西で圧倒的No.1の沿線の実現

戦略2 ストック型事業(首都圏・海外)
首都圏・海外での安定的な収益基盤の構築

戦略3 フロー型事業
ブランド価値の最大化と差別化戦略の徹底追求による競争力強化

戦略4 グループ総合力の更なる発揮と新事業領域の開拓

長期的にありたい姿(2025年度時点で目標とする経営指標)

人口動態の変化の影響を大きく受ける2040年度頃においても、営業利益が最低でも1,000億円水準を生み出せる企業グループになることができるよう、長期ビジョンに掲げる戦略①～④の取組を推し進めることにより、2025年度時点で営業利益1,200億円・EBITDA[※]2,000億円・有利子負債/EBITDA倍率5倍台を目指します。これにより、収益性と財務健全性を示すいずれの指標においても、引き続き大手民鉄の中でトップクラスの水準を確保していきます。

※EBITDA:「営業利益+減価償却費+のれん償却額」により算出

収益性

営業利益
1,200 億円

EBITDA
2,000 億円

財務健全性

有利子負債/
EBITDA倍率 **5** 倍台

グループのあゆみ

私たちは、関西経済の中心である大阪・神戸・京都を鉄道で結ぶとともに、沿線を中心にして商業施設やオフィスビルの経営、阪神タイガースや宝塚歌劇、旅行やホテルなど多岐にわたる分野において、新たなサービスやまちづくりなどを通じ、人々に豊かなライフスタイルを提案し、社会に貢献してきました。

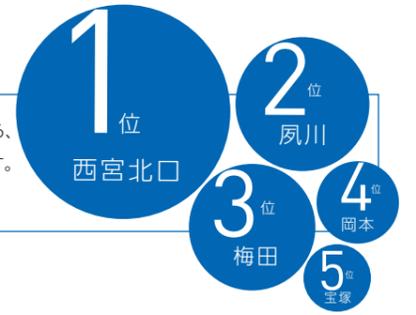
先人たちが発揮した柔軟な発想から生まれる先進性と挑戦への意志は、当社グループの企業文化が内包するDNAとして、現在に至るまで引き継がれています。

<p>1907 小林一三が「箕面有馬電気軌道(阪急電鉄の前身)」を創立</p> <p>1910 宝塚本線(梅田-宝塚間)、箕面線(石橋-箕面間)が開業</p> <p>1913 「宝塚唱歌隊(後の宝塚歌劇団)」を結成</p> 	<p>1924 「宝塚大劇場」竣工</p> <p>1929 東洋初のターミナルデパート「阪急百貨店」営業開始</p> 	<p>1948 パン・アメリカン航空会社の代理店事務を開始</p> 	<p>1964 「新阪急ホテル(大阪)」開業</p> <p>1973 民鉄最大級のターミナル「新・梅田駅」誕生 社名を「阪急電鉄」に変更</p>	<p>2005 「阪急ホールディングス」誕生</p>
<p>1899 「摂津電気鉄道」を設立(同年中に現在の社名である阪神電気鉄道に改称)</p> <p>1905 神戸(三宮)-大阪(出入橋)間、営業開始</p> 	<p>1924 「甲子園球場(後の阪神甲子園球場)」を開設</p> 	<p>1948 航空代理店業を開始</p>	<p>1985 阪神タイガース、初の日本一</p> 	<p>1995 阪神・淡路大震災発生 阪急・阪神ともに甚大な被害を受ける</p>

住んでみたい街アンケート(関西圏)*

当社グループの沿線は、関西主要都市を結び利便性に加え、生活インフラが充実していることから、住んでみたい街として人気の高いエリアとなっています。沿線価値の創造力は、私たちの強みの1つです。

*MAJOR7(大手不動産会社7社)による調査(2018年9月)



2008

「阪急西宮ガーデンズ」開業



2012

梅田阪急ビルの全体竣工、
阪急うめだ本店グランドオープン



2016

ASEAN地域初の
物流倉庫をインドネシアにオープン



2019

阪神なんば線開業から
10周年を迎える



2006

阪急阪神
ホールディングス
誕生

「阪急阪神第一ホテルグループ」誕生

2009

阪神なんば線
(西九条-大阪難波)
営業開始

2010

「梅田阪急ビル オフィスタワー」竣工
阪神甲子園球場の
リニューアル工事が完了、
「甲子園歴史館」がオープン

2014

「宝塚歌劇」1914年の初公演
から100周年を迎える



2017

「阪急阪神
ホールディングスグループ
長期ビジョン2025」発表

2018

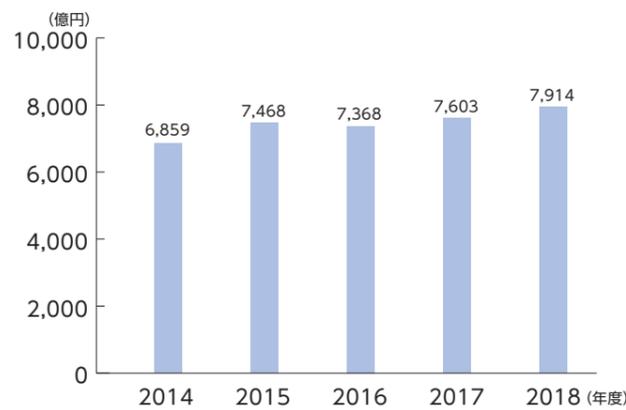
「梅田1丁目1番地計画
(大阪神ビルディング及び
新阪急ビル建替計画)」1期棟竣工



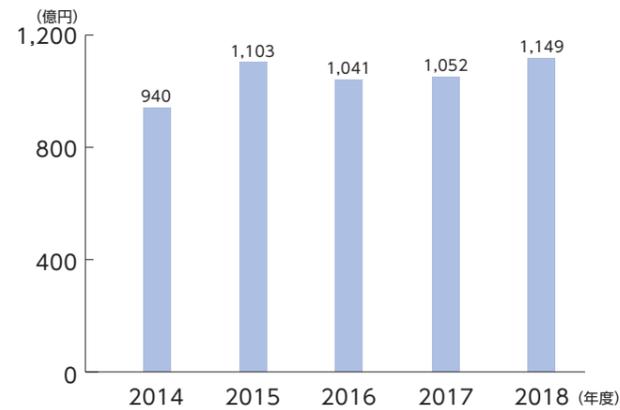
グループの概要

業績の推移

営業収益



営業利益



コア事業と中核会社

現在、当社グループでは「都市交通」「不動産」「エンタテインメント」「情報・通信」「旅行」「国際輸送」「ホテル」の7つの事業領域をコア事業と位置付けています。

また、グループ経営機能を担う当社の下、阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズの6社を中核会社として、グループ全体の有機的な成長を目指しています。

コア事業推進体制



※梅田・沿線エリアでは、阪急電鉄及び阪神電気鉄道が賃貸・開発用不動産を保有しながら、阪急阪神不動産と協働して、交通ネットワークや地元自治体などと連携したまちづくりを推進しています

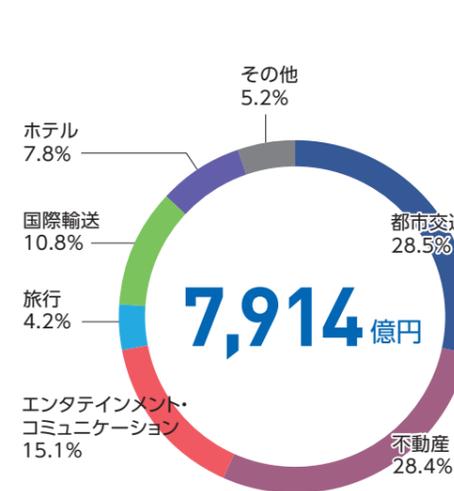
(2019年4月1日現在)

事業ポートフォリオ

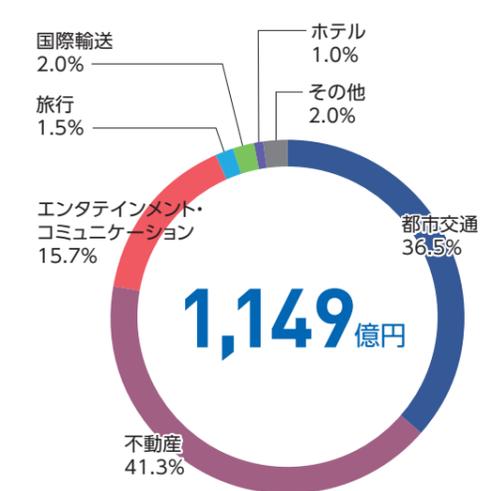
当社グループの事業ポートフォリオは、都市交通事業と不動産事業で営業収益の約6割、営業利益の約8割を占め、安定的なキャッシュフローを創出しています。また、エンタテインメント・コミュニケーション事業の貢献度が、同業他社に比べて安定的に高いことが、当社グループの特徴となっています。

〈2019年3月期〉

営業収益の構成比



営業利益の構成比



※構成比はセグメント間取引を含む各セグメントの単純合算額を基に算出
 ※2019年3月期までは「エンタテインメント」と「情報・通信」を合わせて「エンタテインメント・コミュニケーション」事業と位置付け

収益性	営業利益	1,149億円
	EBITDA	1,714億円
	親会社株主に帰属する当期純利益	655億円

財務健全性	有利子負債	8,771億円
	有利子負債/EBITDA 倍率	5.1倍
	D/E レシオ※	1.0倍

※D/Eレシオ：有利子負債/自己資本で算出



都市交通事業 Urban Transportation

鉄道・バス・タクシーが連携して、安全・安心・快適で多彩な輸送サービスを提供

大阪の心臓部・梅田と神戸、宝塚、京都の3都市を結ぶ阪急電鉄、私鉄で唯一、梅田(キタ)と大阪難波(ミナミ)の2大都心に乗り入れる阪神電気鉄道。この2社を中心に、鉄道・バス・タクシーが連携して、関西圏における一大ネットワークを形成し、安全、安心、快適で多彩な輸送サービスを提供。駅ナカ・駅チカの物販施設で駅の快適性を高める流通と交通広告を一体的に運営し、相乗効果を発揮することで、沿線の新たな価値創造にも取り組んでいます。



鉄道

新線計画

阪急電鉄では、沿線のさらなる価値向上を目指し、関西の空の玄関口である関西国際空港・大阪国際空港(伊丹空港)並びにリニア中央新幹線が計画されている新大阪駅との結びつきを、より深める3つの新線計画*を進めています。これらの新線により、鉄道ネットワークを強化し、将来にわたって多くのお客様に選ばれ続ける沿線を目指していきます。

*なにわ筋連絡線：JR大阪駅北側の(仮称)北梅田駅から十三駅を結ぶ路線
新大阪連絡線：十三駅から新大阪駅を結ぶ路線
大阪空港線：宝塚線から分岐し大阪国際空港を結ぶ路線



インバウンドへの取り組み

外国人観光客を沿線やグループ施設などに誘致するため、阪急全線フリー乗車券「HANKYU TOURIST PASS」および阪神・神戸高速全線フリー乗車券「HANSHIN TOURIST PASS」を販売しています。また、快適にご利用いただくために、フリーWi-Fiサービスの提供を行うほか、阪急梅田駅や河原町駅、烏丸駅、阪神神戸三宮駅、西宮駅には、JNTO(日本政府観光局)認定外国人観光案内所を設置しています。阪急京都線で運行中の「京とれいん」では、和の雰囲気あふれる内装で京都への旅を盛り上げるとともに、4カ国語での案内放送を行っており、多くの方にご利用いただいています。阪神電気鉄道では、台湾の「桃園メトロ」と観光連携協定を締結して相互送客のプロモーション活動を展開しているほか、阪神なんば線を中心に車内多言語自動放送を行っています。



バス・タクシー

阪急バス・阪神バスでは、路線バスのリアルタイムな運行状況などを検索できるバスロケーションサービスを提供するなど、お客様が安心、そして快適にご利用いただけるよう努めています。また、阪急バス・阪神バスでは、ハウスICカード乗車券「hanica」を導入し、阪急タクシー・阪神タクシーでは、各種電子決済を取り扱うなど、多様化する決済ニーズに対応。環境への配慮からエコドライブの推進にも取り組むほか、駐輪場の管理運営など、沿線の交通ネットワークの拡充に努めています。



利便性の向上

阪急電鉄・阪神電気鉄道では、「TOKKアプリ」「阪神アプリ」をそれぞれ配信しています。列車の運行情報をはじめ、列車走行位置などを提供し、遅れや運転見合わせが生じた時にはプッシュ通知でお知らせ。より便利にご利用いただけます。

安全・安心な駅環境づくり

駅ホームのさらなる安全性向上のため、ホームドアの設置を進めています。北大阪急行電鉄では、千里中央駅・緑地公園駅・桃山台駅、阪急電鉄では十三駅3・4・5号線においてホームドアの使用を開始しています。その他、阪急神戸三宮駅・阪神神戸三宮駅で2021年春頃までに、阪神梅田駅で2022年度末までに整備を完了する予定です。



交通広告

電車内はもちろん、デジタルサイネージなどの駅媒体やイベントスペースのような駅区画を活用し、クライアント様に“価値ある空間”をご提供。交通広告の戦略的メディアミックスを実現しています。



流通

阪急・阪神沿線の駅ナカを中心に、化粧品・服飾雑貨店「カラーフィールド」や食品スーパー「成城石井」のフランチャイズ店舗などを展開。その他、外部パートナー企業と提携して幅広く小売サービスを提供することで、お客様の利便性の向上に努めています。





不動産事業 Real Estate

魅力あるまちづくりへの貢献と豊かなライフスタイルの提案

創業期から魅力あふれる沿線づくり・まちづくりにこだわり、都市交通事業と共に成長を続けてきた不動産事業。まちににぎわいをもたらす商業施設やオフィスビルの開発・賃貸・運営管理、そしてライフスタイルにフィットした上質な住まいの提供。さらには不動産と金融の融合を実現する不動産ファンド事業。「まちづくり」のDNAを受け継ぐ者たちが描く未来図は、さまざまな形で実を結んでいます。

開発

沿線や首都圏でさまざまな開発プロジェクトを展開

大阪梅田においては、「梅田1丁目1番地計画」を推進しています。当計画では、大阪神ビルディングと新阪急ビルの一体的な建て替えを進めており、2018年4月に1期棟が竣工、6月には阪神百貨店（阪神梅田本店）が部分開業しました。ビルの名称は「大阪梅田ツインタワーズ・サウス」に決定。2022年春全体竣工予定のⅡ期棟は、百貨店ゾーンのほか、オフィスゾーン、カンファレンスゾーンで構成されます。1フロア当たりの貸室面積が約3,500㎡と西日本最大規模となるオフィスゾーンでは、オフィスワーカー専用フロアを設け、働く皆様の利便性を高めます。カンファレンスゾーンでは、ビジネス情報の発信の場となる大小2つの多目的ホールを設置し、梅田地区のビジネス活動の活性化に貢献していきます。また、この建て替えと周辺公共施設の整備を一体的に行うことにより、都市機能の高度化や防災機能の強化、公共的空間の創出、良好な景観の形成などを図っています。このほか、神戸三宮では神戸阪急ビル東館建て替え計画を推進。首都圏でも東京都心5区を中心に、銀座での商業施設開発をはじめとしてさまざまなプロジェクトに取り組み、魅力あるまちづくりを進めています。



大阪梅田ツインタワーズ・サウス(完成イメージ)

賃貸

数多くの商業施設・オフィスビルを保有・管理し、魅力あるまちづくりに貢献

梅田阪急ビル、グランフロント大阪、阪急三番街、HEP FIVE、ハービスOSAKA・ハービスENT、阪急西宮ガーデンズなど、阪急・阪神沿線を中心に、数多くの商業施設・オフィスビルを保有。賃貸可能面積は合計で約190万㎡※に上ります。2015年からは、グループ内の主要ショッピングセンターで利用できる「阪急阪神おでかけカード」のサービスを開始。競争力の強化と稼働率の維持向上などに取り組んでいます。

※2019年3月末現在



ハービスENT



阪急西宮ガーデンズ

国内分譲

「ジオ」「ハピア」ブランドの分譲を中心にお客様の夢をかなえる住まいを提案

お客様の視点で品と質にこだわり、まちと共に末永く愛され、時を経るごとに愛着を感じていただける住まいづくりを目指す「ジオ」ブランドのマンション。ライフスタイルの移り変わりをしなやかに捉え、これからの快適な住まい創造に取り組む「ハピア」ブランドの戸建住宅。これらを中心に、国内では京阪神のみならず首都圏においても、お客様の夢をかなえる住まいを提案しています。



ジオグランデ元麻布



ハピアガーデン 神戸高丸

海外分譲

ASEAN各国へ進出

国内での実績を活かし、タイ・ベトナム・フィリピン・インドネシア・マレーシアの5カ国※で、分譲住宅開発プロジェクトに参画。これらを通じて、海外不動産事業のノウハウ蓄積と規模拡大を目指しています。

※2019年7月現在



Chaeng Watthana(チェンワッタナ)プロジェクト(タイバンコク)

新産業創出支援

スタートアップ支援オフィス GVH#5

起業家向け会員制オフィスを2014年に開設したほか、翌年には「梅田スタートアップファンド」を設立し、資金面でもサポート。国際的なビジネス拠点として、大阪梅田を中心とした関西圏の国際競争力の一助となることを目指し、新産業創出や起業家支援に取り組んでいます。



GVH#5





エンタテインメント事業 Entertainment

人々を魅了する「夢」と「感動」をプロデュース

全国の熱狂的なファンに支持される阪神タイガースと阪神甲子園球場、そして、「清く 正しく 美しく」を理念として歴史を刻み続ける宝塚歌劇。当社グループ固有の強みであるスポーツ事業とステージ事業をはじめ、多彩なライブエンタテインメントを提供し、お客様の暮らしを彩っています。



スポーツ

阪神タイガース



プロ野球12球団トップクラスの歴史と伝統、観客動員数を誇る人気球団。観客を魅了する選手たちのプレーは、日本の野球界発展に寄与し続けています。



阪神甲子園球場

阪神タイガースのホームグラウンドとして知られるほか、2018年春に第90回、夏には第100回記念大会を迎えた高校野球の舞台。全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の決勝戦をはじめとする大型イベントの会場にもなっています。2019年8月に95周年を迎えますが、今後もその歴史と魅力を色あせることなく発信し続けていきます。



ステージ

宝塚歌劇



世界でも数少ない女性だけの劇団として、お客様を夢と感動のステージへと誘う宝塚歌劇団。1914年の第一回公演から100年を超える歴史が綴られてきました。2018年秋には第三回台湾公演を開催するなど、国内のみならず、これまで計18の国と地域・計27回*の海外公演を実施し、高い評価をいただいています。このほか、専門チャンネル「TAKARAZUKA SKY STAGE」やインターネットを通じた映像・音楽の配信、映画館でのライブ中継など、多方面へのメディア展開も行っています。

※2019年7月現在



梅田芸術劇場

1,905席のメインホールと898席のシアター・ドラマシティの2つの劇場を運営し、ミュージカルや宝塚歌劇などの自主公演を行うとともに、演劇・コンサート・ミュージカルなどの多彩な公演を招聘しています。



音楽

ビルボード

100年以上の歴史を持ち、世界で最も信頼される音楽ブランドである“ビルボード”。2006年に日本におけるライセンス契約を締結し、クラブ事業をはじめ多角的に展開しています。



レジャー

六甲山

日本有数の夜景が見られる六甲山は、訪日外国人観光客にも人気のスポット。スキー場や植物園、展望台、オルゴールミュージアムなど多彩なレジャー施設を展開しています。また、六甲山の自然・眺望と現代アート作品を組み合わせた展覧会「六甲ミーツ・アート」も好評を博しています。





情報・通信事業 Information and Communication Technology

情報・通信技術の活用を通して、 社会の発展に貢献

社会インフラに関するシステム開発や、Eコマース（電子商取引）サイトの構築・保守などの情報サービス事業、テレビ・インターネット・電話の各サービスを中心とした地域密着型の放送・通信事業、さらには、セキュリティサービスや、プログラミング教育といったあんしん・教育事業を通じて、高度情報化社会のビジネスをサポートするとともに、日々の暮らしに安心・快適をお届けしています。



情報サービス

アイテック阪急阪神

EコマースやWeb制作などのインターネットビジネスに加え、長年培ってきた鉄道やビルなどの社会インフラに関するシステム開発を幅広く行っています。また、臨床検査・健診・電子カルテなどの医療分野のソリューションや高品質なソフトウェア開発などの受託サービスも展開。生活に関わる安心と快適をお届けし、さらなるソリューション強化による全国規模の拡大を目指しています。



放送・通信

ベイ・コミュニケーションズ(Baycom)、 姫路ケーブルテレビ(WINK)

沿線地域を中心に、テレビ・インターネット・電話を快適にご利用いただける情報インフラを提供。最近では、光インターネットサービスなどのよりハイスペックなサービスをご利用いただけるようになったほか、地域に密着したオリジナル番組（コミュニティチャンネル）の制作にも力を入れています。



あんしん

ミマモルメ



無線ICタグを持った子どもが学校の校門を通過すると、保護者にメール通知が届く「ミマモルメ」と、このシステムを応用し、自治体が設置した見守りカメラが子どもや高齢者などの見守り対象者の位置情報を通知する「まちなかミマモルメ」により、安全・安心に暮らせるまちづくりに貢献しています。



教育

プログラボ



子ども向けロボットプログラミング教室「プログラボ」。プログラミング教育への注目度を背景に、生徒数は約4,000名となり、学校での出張・課外授業にも取り組んでいます。論理的思考力や問題解決能力、創造力を養成し、未来を担う子どもたちの「夢を実現するチカラ」を育みます。





旅行事業 Travel

お客様の声に応える「旅」を創出

1948年の創業以来、常に「お客様目線」を大切に、多様化するニーズに応じてまいりました。長年培ったノウハウで、パッケージツアーから個人旅行、企業の団体旅行や業務渡航、そして訪日外国人旅行に至るまで、品質を大切に安心・安全な旅と感動を提供しています。



国内旅行・海外旅行

5つのブランド展開で、お客様に「心に届く旅」を提供



添乗員付きツアーを中心に全世界を舞台とした旅行事業を展開。2019年に30周年を迎えた「トラピックス」をはじめ、ゆとりの旅の「クリスタルハート」「阪神航空フレンドツアー」、自由な旅の「e-very」、思い通りの贅沢をかなえる「ロイヤルコレクション」の多彩な5ブランドを、新聞広告や情報誌、Web、テレビ通販とCMなどのメディアを通じて、販売しています。また、クルーズ旅行、「クリスタルクルーザー「葦」(すみれ)」を利用した国内のこだわりバス旅行、ハイキング、着地型旅行など多様化するニーズに応える新たな旅の創造にも注力しています。



団体旅行・MICE

団体旅行のさまざまなご要望に対応

企業・法人向けに、視察旅行や報奨旅行、研修旅行、イベント・コンベンションといった団体旅行や、修学旅行などの教育旅行を企画、提案。長年にわたって培った経験と知識を活かし、お客様の多様なニーズにお応えします。



訪日外国人旅行

きめ細やかなサービスで訪日旅行をプロデュース

急増するインバウンド需要に応えるため、ヨーロッパやシンガポールなどの海外拠点と連携し、万全の受け入れ体制でお迎えます。欧米・東南アジアをはじめ、世界各国から訪日されるお客様に満足いただいています。



業務渡航

安心・快適なビジネス旅行をサポート

全世界の航空会社の予約・発券、各国査証取得はもちろん、現地到着後のホテルの予約や通訳の手配まで、構築したノウハウを活かして安心・快適なビジネス旅行をご提供します。コスト削減やリスクマネジメントにも対応するBTM (Business Travel Management) などのサービスで、お客様の海外事業展開をサポートします。





国際輸送事業 International Transportation

グローバルに展開する高品質なサービスと、最適なロジスティクスを提供

国際物流のパイオニアとして、半世紀以上にわたって海外での事業を展開してきた実績とノウハウを活かし、航空・海上による一貫輸送や多国間輸送をプロデュース。通関、保管・管理、物流コンサルティングに至るまで、充実したサービスを展開し、お客様にとって最適なサプライチェーン・マネジメントをサポートします。



国際航空貨物輸送

日本初のIATA航空貨物取扱代理店として、信頼の国際輸送サービスを提供

1948年に日本初の国際航空運送協会 (IATA) 認可の貨物代理店として、国際航空貨物輸送の業務に進出して以来、確固たるブランド力を築き上げてきました。物流の始点から終点まで一貫したサービスで、お客様から厚い信頼をいただいています。28の国と地域に100を超える自社拠点を有し、海外の現地法人や提携代理店も含め、迅速かつ安全なドア・ツー・ドアの国際輸送サービスを提供しています。



国際海上貨物輸送

輸出入を問わず海上貨物輸送を、ドア・ツー・ドアで

外航海運利用事業者 (NVOCC) として、国際航空貨物輸送と同様にグローバルなネットワークを活かした国際海上貨物輸送を行っています。一般コンテナ輸送 [LCL (混載貨物)・FCL (コンテナ扱い貨物)] はもちろんのこと、特殊コンテナ輸送、在来船利用輸送、さらには輸出入通関や物流コンサルティングまで、お客様のニーズに応える最適なサービスをお届けします。



ロジスティクス

物流全体を最適化するソリューションを提案・実現

高度な物流コンサルティング能力を備えたエキスパートが、最先端のITを最大限に駆使し、お客様に最適なロジスティクス・ソリューションを提案。高機能倉庫での保管・管理、流通加工、配送など、物流全体を包括的に捉え、国内外において、高品質でスピーディーなオペレーションを実現します。また、2009年には、AEO制度*における「特定保税承認者」に承認されました。



通関業

コンプライアンスに基づく適正・迅速な通関業務

貨物の内容や数量などを代行して税関に申告し許可を得る、貨物の輸出入に不可欠な通関手続きにも精通。全国6税関から通関営業許可を受け、通関士の有資格者を中心としたプロフェッショナル集団がコンプライアンスに基づいた適正・迅速な通関業務を実施しています。2017年には、AEO制度*における「認定通関業者」の認定を取得しました。



*貨物のセキュリティー管理とコンプライアンス体制が整備された事業者に対し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度



ホテル事業 Hotels

日本屈指のホテルグループを展開

全47ホテル、総客室数11,000室を超える日本屈指のホテルグループ「阪急阪神第一ホテルグループ」を展開。
現代人のより良い眠りをデザインする宿泊主体型ホテルから、非日常を満喫できるラグジュアリーホテルまで、お客様の思いに寄り添うホスピタリティーで最高のおもてなしをお届けします。



阪急阪神第一ホテルグループ

90余年の歴史と伝統を礎に チェーンホテルオペレーターとしてネットワークを拡大

1926年開業の宝塚ホテルのほか、1938年にビジネスホテルの草分けとして誕生した第一ホテル(現 第一ホテル東京)、大阪梅田の中心に位置する大阪新阪急ホテルなど、時代が求めるさまざまなホテルを経営してきました。現在では、新規ホテルのブランディングから既存ホテルのリブランドまで、長年培ったホテル経営のノウハウを活かして、グループの加盟ホテルをサポート。チェーンホテルオペレーターとして、営業所からの送客や本部からの各種サポートによって、ホテルネットワークの拡大と営業力の強化に努めています。



第一ホテル東京

大阪新阪急ホテル

加盟ホテル一覧 (2019年7月1日現在)

近畿 <直営ホテル 11ホテル> 京都新阪急ホテル レム新大阪 ホテル阪急インターナショナル 大阪新阪急ホテル 新阪急ホテルアネックス 梅田OSホテル ホテル阪神大阪 ホテル阪神アネックス大阪 千里阪急ホテル ホテル阪急エキスポパーク 宝塚ホテル <チェーンホテル 6ホテル> ホテルポストンプラザ草津(びわ湖) ホテルロイヤルヒル福知山&SPA 天橋立ホテル 大阪第一ホテル ホテルベイガルス(関西空港) 有馬ざらり	関東 <直営ホテル 8ホテル> 第一ホテル東京 第一ホテルアネックス レム日比谷 レム秋葉原 レム六本木 レム東京京橋 第一ホテル東京シーフォート 吉祥寺第一ホテル <チェーンホテル 5ホテル> 銀座クレストン アワーズイン阪急 第一ホテル両国 第一イン池袋 第一イン湘南	東北 <チェーンホテル 4ホテル> 東京第一ホテル岩沼リゾート 東京第一ホテル鶴岡 東京第一ホテル米沢 東京第一ホテル新白河 中部・北陸 <チェーンホテル 3ホテル> 富山第一ホテル 第一イン新湊 東京第一ホテル錦(名古屋市)	四国 <チェーンホテル 6ホテル> 高松国際ホテル JRホテルクレメント高松 JRホテルクレメント徳島 ザクラウンパレス新阪急高知 東京第一ホテル松山 今治国際ホテル 九州 <直営ホテル 1ホテル> レム鹿児島
		中国 <チェーンホテル 3ホテル> ホテル一畑 呉阪急ホテル 東京第一ホテル下関	

remm(レム)～眠りをデザインするホテル

2007年、「上質な眠り」をコンセプトにスタートした宿泊主体型ホテル「remm(レム)」。

お客様に五感を通じて「よい眠り」を実感していただくためのデザインを随所に施しているホテルブランドです。日比谷で1号店を立ち上げて以来、秋葉原、鹿児島、新大阪、六本木、東京京橋に出店。2019年12月には、ワンランク上のブランド「remm+(レムプラス)」の1号店として銀座での開業も予定しています。



レム六本木 客室

新ブランド「Hotel Hankyu RESPIRE(ホテル阪急レスパイア)」

2019年11月、ヨドバシ梅田タワーに、新ブランド1号店「Hotel Hankyu RESPIRE OSAKA(ホテル阪急レスパイア大阪)」を開業します。インバウンドのお客様をメインターゲットとし、全ての客室をダブルツイン、トリプルなど2名様以上でご利用いただけるタイプで構成。大阪・関西万博の開催も決定し、国際観光都市として更なる成長が期待される大阪の一等地「梅田」にありながら、1,000室を超える規模の宿泊主体型ホテルとなります。



ホテル阪急レスパイア大阪

ザ・リッツ・カールトン大阪

“もうひとつの我が家”のように落ち着いた雰囲気と心温まるサービスでお客様をお迎え

阪急阪神第一ホテルグループ以外にも、ラグジュアリーホテルである「ザ・リッツ・カールトン大阪」を経営。米国に本拠を置くザ・リッツ・カールトンの日本における初のホテルとして、開業以来、高い評価を得ています。時代を超えたクラシカルな空間、そして心のこもったおもてなしとサービスで、お客様にユニークで思い出に残るパーソナルな体験を提供します。



レストラン ラ・ベ

都市交通
不動産
エンタテインメント
情報通信
旅行
国際輸送
ホテル
その他の事業/ESG
ESG
阪急阪神東宝グループ
グループ一覧

その他の事業 Other

関西エリア共通ポイント「Sポイント」サービス

当社およびエイチ・ツー・オー リテイリンググループは、阪急阪神グループとして、2016年よりグループ横断的なポイントサービスを開始。スーパーマーケット、ショッピングセンターや百貨店、舞台観劇からプロ野球の試合観戦まで、関西エリアにおいて多数の施設やさまざまな業種にわたるサービスを展開する阪急阪神グループとしての強みを発揮し、お客様の利便性向上に取り組んでいます。2018年より、阪急阪神の駅ナカ・駅チカショップや、セブン-イレブン（関西2府4県）の店舗での利用がスタート。関西エリアでのますますのポイントサービス拡大を目指しています。



アフタースクールKippo



“子育てしやすい沿線”の実現を目指し、学童保育施設「アフタースクール Kippo」を阪急豊中駅・西宮北口駅・池田駅に3店舗展開しています。生活・学習習慣づくりをサポートするほか、グループの施設やネットワークを活かし、「社会・しごと」「文化体験」「自然体験」「ものづくり」の4つのカテゴリからなる多彩なプログラムを実施。広い視野を持って楽しく成長できる、放課後の「もうひとつの居場所」を提供しています。

はんしんいきいきデイサービス



高齢者の方に、住み慣れた街でいきいきとした生活を送っていただくことを目的とした、半日タイプのリハビリ特化型デイサービス。現在、阪急・阪神沿線で15店舗を運営しています。各店舗では、ドイツの認証を日本国内で唯一取得した信頼性の高いリハビリ機器を採用。要介護・要支援認定を受けた方を中心に、明るく広々とした室内で、心身の機能回復を図るリハビリテーションを提供しています。

ESGに関する取り組み

環境保全活動 Environment

より良い地球・生活環境を子どもたちに

当社グループでは、「環境基本理念」および「環境基本方針」を制定し、環境保全活動を行っています。従来から地球温暖化防止の観点で省エネルギーに取り組んでおり、また、廃棄物の削減や自然環境保全への取り組みも進めています。

基本理念

阪急阪神ホールディングスグループは、地球環境の保全は人類共通のテーマであるとの認識のもと、より良い地球・生活環境を次世代に引き継ぐため、環境に配慮した事業活動を推進し、持続的発展が可能な社会づくりに貢献します。

地球温暖化防止・省エネ

LED照明の導入

阪急・阪神沿線の駅やグループの各施設において、LED照明の導入を推進。阪急京都線西院駅～河原町駅間における地下空間の照明のLED化は、環境省のモデル事業に採択され、4,261台に及ぶLED化と大幅なCO2削減により「平成26年度近畿運輸局交通関係環境保全優良事業者等局長表彰」を受賞しました。



太陽光パネルの設置

阪急摂津市駅や阪神大石駅、阪神甲子園球場の銀傘など、グループの各施設に太陽光パネルを設置。発電した電力を各施設で使用しています。



まちづくりと環境意識の向上

持続可能な暮らしや地球環境について考えてもらうきっかけとして、「梅田ゆかた祭」でお客さま参加型の打ち水を実施しているほか、街のあかりを消してキャンドルを灯す「1000000人のキャンドルナイト@OSAKA CITY」に参画しています。



自然環境の保全

森林保全と緑化への取り組み

能勢電鉄の従業員ボランティアと市民団体による、森林環境整備を目的とした間伐活動のほか、グループの各施設で屋上緑化や壁面緑化を採用し、緑化を進めています。



ステークホルダーとともに

阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト

当社グループは、100年以上の長きにわたり、阪急・阪神沿線を中心とした地域社会に生まれ、信頼関係を築いてきました。これからの100年も、この地域社会の一員として歩んでいくために、2009年4月より、グループの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」を推進しています。



基本方針

阪急阪神沿線を中心に、私たち一人ひとりが関わる地域において、「未来にわたり住みたいまち」をつくることを目指します。

環境づくり

地域に密着した事業を行ってきたグループとして、地域コミュニティが安全・安心かつ文化的で、環境に配慮しながら発展する、持続可能なまちづくりに取り組みます。

人づくり

未来の地域社会を担う人材である子どもたちが、夢を持って健やかに成長する機会を創出します。

重点領域

グループ各社の社会貢献活動 ～昨年度は94件の活動を実施～

阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊

当社グループの事業や施設、人材を活かし、夏休み期間中の小学生に多彩で本格的な仕事体験や学びの機会を提供。これまでに累計322のプログラムに1万5,000人を超える子どもたちを招待しています。



阪急ゆめ・まち わくわくWORKプログラム

阪急電鉄の管理職が、同社の創業者「小林一三」のまちづくりや、まちのさまざまな仕事について、小学校で行う出張授業。これまでにのべ140校 約1万1,000人の子どもたちに将来の仕事を考える機会を提供しています。



高野山道普請ボランティア活動

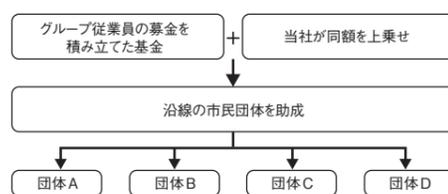
(阪急交通社、エアサーブ、阪急トラベルサポート、阪急阪神ビジネスホテル、阪神トラベル・インターナショナル、ホップス)

熊野古道や高野山への主要な参詣道として利用され、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されている「高野山町石道・女人道」の維持・修復活動へのボランティアを従業員と一般のお客様に呼びかけ実施しています。



阪急阪神 未来のゆめ・まち基金

沿線の市民団体に助成を行うプログラム。グループ従業員が給与天引きなどで募金した積立金に、当社が同額を上乗せし、これまでに129団体へ7,029万円を助成しました。



従業員の募金を基に、応援し続けて10年

第10回を記念した今年度は、これまでの「団体助成部門」に加え、国連が進める社会課題の解決(SDGs)につながる市民団体の事業を支援する「事業助成部門」を設けました。



ダイバーシティ

グループ経営理念の「人の尊重」という価値観のもと、職場環境や各種制度の整備を進めることにより、全ての従業員が能力を最大限発揮し、活躍できるよう支援しています。

柔軟な働き方の支援

グループ各社の事業特性に応じて、フレックスタイム制、年次有給休暇の半日取得、ノー残業デーなどの導入に取り組んでいます。

仕事と育児・介護の両立支援

ライフイベントやキャリアに合わせて利用内容を選択し、安心して仕事と育児・介護を両立できるように、各種制度の整備を進めています。

女性の活躍推進

女性の採用拡大や職域の拡大など、性別にかかわらず全ての従業員が活躍できる組織作りを進めています。

障がい者雇用

グループ全体で、障がい者雇用の促進に取り組む体制を構築しています。



健康経営

当社グループでは、経営理念において「人の尊重」を大切な価値観とし、従業員やその家族の健康がグループの豊かな未来の礎であると考えています。そうした考えのもと、「健康経営」という視点から、一人ひとりの健康意識の向上と働きがいのある職場の実現を推進するため、2018年4月に「健康宣言」を制定しました。この「健康宣言」に基づき、従業員が多様な個性や能力を最大限に発揮できるよう、健康の維持・増進のための施策を推進しています。

阪急阪神ホールディングスグループ 健康宣言

阪急阪神ホールディングスグループでは、従業員やその家族の心身の「健康」が、幸せの源泉であるとともに、グループの豊かな未来の礎であると考えています。また、お客様に「安心・快適」、そして「夢・感動」をお届けするためには、みんなが健康で多様な個性や能力を最大限に発揮することが何よりも大切です。

これを実現するために、私たちは自らの健康に高い意識を持ち、職場の仲間や家族とともに健康づくりに取り組みます。

ここに阪急阪神ホールディングスグループは、「阪急阪神Wellnessチャレンジ」をスローガンに、一人ひとりの健康づくりを積極的に支援するとともに、生き活きと働くことができる職場環境づくりに努めることを宣言します。

2018年4月

阪急阪神ホールディングス株式会社
代表取締役社長 健康経営推進責任者
杉山 健博

大規模法人部門で阪急電鉄、阪神電気鉄道、アイテック阪急阪神が、中小規模法人部門で阪急阪神保険サービスが、それぞれ2019年2月に「健康経営優良法人」に認定*されました。

*「健康経営優良法人認定制度」とは、経済産業省と日本健康会議が共同で始めたもので、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組のもと、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度で、毎年日本健康会議が認定しています。



皆様から信頼される企業で あり続けるために

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、グループ経営理念に定めた使命及び価値観のもと、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様から信頼される企業であり続けるために、経営の透明性・健全性を一層高めることや、法令等の遵守、適時適切な情報開示などを通じて、コーポレート・ガバナンスの強化・充実を図っています。

上記の基本的な考え方に基づき、以下の方針を定め、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指します。

- 株主の権利を尊重し、平等性を確保します。
- 株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働します。
- 会社情報を適切に開示し、透明性を確保します。
- 取締役会の役割・責務を適切に遂行し、高度な監督機能と意思決定機能の確保に努めます。
- 当社の持続的成長や中長期的な企業価値向上の観点から、株主と建設的な対話を行います。

コーポレート・ガバナンス体制

当社グループは、純粹持株会社体制を採用しており、事業執行は基本的に傘下のグループ会社が担当し、当社はグループ全体の監視・監督を主要な職務とすることで、監視・監督機能と執行機能を分離した体制としています。

そのような体制のもと、当社は、

- 当社及び当社グループの経営方針、経営戦略等に関わる事項の決定
- 各コア事業の中期・年度経営計画の承認
- 事業執行会社に対して適時その進捗状況に関する報告の要求
- グループ会社がグループ経営の観点から重要な事項（例：一定金額以上の投資）を実施する場合における事前承認

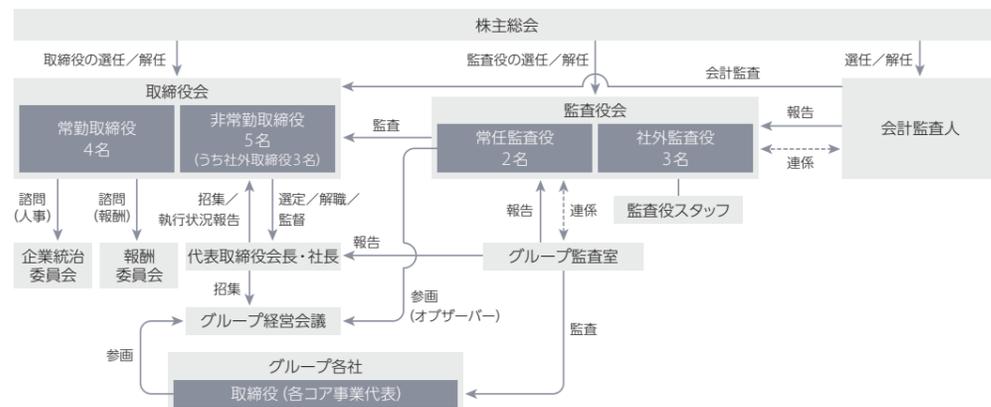
などにより、各会社を監視・監督し、グループ全体のガバナンスの向上を図っています。

そのため、上記事項については、社外取締役を加えて構成された当社取締役会を承認または報告の場とするとともに、その前置機関として、当社グループの各コア事業の代表者等もメンバーに加えたグループ経営会議を設置しています。

また、当社従業員の人事・報酬の透明性の確保、社外役員間の連携などを目的として、企業統治委員会及び報酬委員会を設置しています。

更に、当社グループでは、グループとしての総合力強化の一環として、資金調達を当社に一元化し、事業執行会社には、当社が承認した経営計画の範囲内において必要な資金が配分される仕組の整備を推進するなど、資金面でのガバナンスの強化にも努めています。

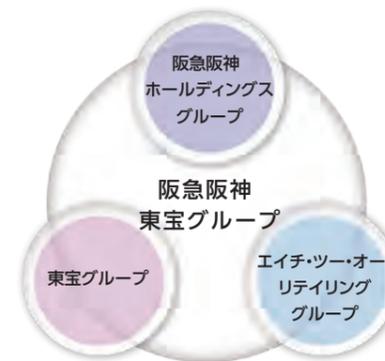
コーポレート・ガバナンス体系図



阪急阪神東宝グループ (2019年3月31日現在)

阪急阪神東宝グループは、当社グループ、阪急百貨店と阪神百貨店を核に百貨店事業をはじめとする小売関連事業を展開するエイチ・ツー・オー リテイリンググループ、映画製作・配給・興行を中心に事業を展開する東宝グループから構成される企業グループです。

グループ会社数 202社 5団体
グループ従業員数 34,626人
グループ売上高 1兆9,646億円



■ 阪急阪神ホールディングスグループ

阪急電鉄、阪神電気鉄道、阪急阪神不動産、阪急交通社、阪急阪神エクスプレス、阪急阪神ホテルズの6社を中核会社とするグループ。都市交通、不動産、エンタテインメント、情報・通信、旅行、国際輸送、ホテル、の7つの事業領域をコア事業と位置付け、幅広く展開しています。

グループ会社数 106社 5団体
グループ従業員数 22,654人
グループ売上高 7,914億円

■ エイチ・ツー・オー リテイリンググループ

持株会社エイチ・ツー・オー リテイリングのもと、百貨店事業、食品事業、不動産事業、及びホテルや飲食店、個別宅配サービスなどの事業活動を展開しています。

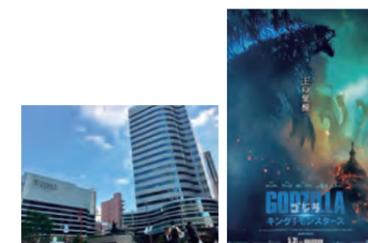
グループ会社数 61社
グループ従業員数 8,793人
グループ売上高 9,269億円



■ 東宝グループ

東宝を中心とするグループ。映画製作・配給・興行、演劇製作・興行の事業を新宿東宝ビル・日比谷シャンテなどの不動産事業が堅実に支え、アニメ製作やDVDソフトの制作・販売、シネマコンプレックス網の拡充にも力を注ぎ、幅広いお客様にエンタテインメントを提供しています。

グループ会社数 39社
グループ従業員数 3,179人
グループ売上高 2,463億円



©2019 Legendary and Warner Bros. Pictures. All Rights Reserved.



(注1) 阪急阪神東宝グループの数値は、複数のグループにまたがる会社の重複分を除く。

(注2) グループ会社数には連結子会社および持分法適用関連会社を含む。グループ従業員数およびグループ売上高には連結子会社を含む。

阪急阪神ホールディングス グループ一覧 (2019年7月1日現在)

阪急阪神ホールディングス株式会社

会社創立 1907年(明治40年)10月19日
 登記上本店 〒563-0056 大阪府池田市栄町1番1号
 本社事務所 〒530-0012 大阪市北区芝田1丁目16番1号
 人事総務室 東京統括部 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1丁目5番2号 東宝ツインタワービル5階
 資本金 994億74百万円(2019年3月31日現在)

中核会社



都市交通事業

- ・アルナ車両(株)
- ・(株)いいなダイニング
- ・池田エルピーガス(株)
- ・(株)エキ・リテール・サービス阪急阪神
- ・大阪空港交通(株)
- ・大阪阪神タクシー(株)
- ・(株)オムテック
- ・北大阪急行電鉄(株)
- ・神戸高速鉄道(株)
- ・丹後海陸交通(株)
- ・西大阪高速鉄道(株)

- ・西山ドライブウェイ(株)
- ・能勢電鉄(株)
- ・(株)ハックス阪神
- ・(株)阪急アドエージェンシー
- ・阪急観光バス(株)
- ・阪急通勤バス(株)
- ・阪急通勤バス(株)
- ・阪急通勤バス(株)
- ・阪急通勤バス(株)
- ・阪急通勤バス(株)
- ・阪急通勤バス(株)

- ・(株)阪急阪神エムテック
- ・(株)阪急阪神電気システム
- ・(株)阪急レールウェイサービス
- ・阪神車両メンテナンス(株)
- ・(株)阪神ステーションネット
- ・阪神タクシー(株)
- ・阪神バス(株)
- ・北神急行電鉄(株)
- ・リッツ(株)

不動産事業

- ・アドバンス開発(株)
- ・(株)梅田センタービル
- ・大阪ダイヤモンド地下街(株)
- ・(株)キョウトウ
- ・千里朝日阪急ビル管理(株)
- ・(株)阪急仁川スポーツガーデン
- ・阪急阪神エステート・サービス(株)

- ・阪急阪神グリーンサービス(株)
- ・阪急阪神ハイセキュリティサービス(株)
- ・(株)阪急阪神ハウジングサポート
- ・阪急阪神ビルマネジメント(株)
- ・阪急阪神不動産投資顧問(株)
- ・阪急阪神リート投信(株)

- 〈海外現地法人〉
- ・HANKYU HANSHIN PROPERTIES SINGAPORE PTE. LTD.
- 〈その他の団体〉
- ・公益財団法人 都市活力研究所
- ・医療法人 阪急共栄会

エンタテインメント事業

- ・(株)ウエルネス阪神
- ・(株)梅田芸術劇場
- ・(株)宝塚クリエイティブアーツ
- ・(株)宝塚舞台
- ・(株)鳴尾ウォーターワールド

- ・(株)阪神コンテンツリンク
- ・(株)阪神タイガース
- ・(株)ピーアンドピー浜松
- ・六甲山観光(株)

- 〈その他の団体〉
- ・学校法人 宝塚音楽学校
- ・宝塚歌劇団

情報・通信事業

- ・アイテックソフトウェア(株)
- ・アイテック阪急阪神(株)
- ・(株)アールワークス
- ・(株)エフエム・キタ
- ・(株)システム技研
- ・(株)日本プロテック

- ・阪神ケーブルエンジニアリング(株)
- ・姫路ケーブルテレビ(株)
- ・(株)ベイ・コミュニケーションズ
- ・(株)ミマモルメ
- ・コムリンク(株)

旅行事業

- ・(株)エアサーブ
 - ・(株)たびこふれ
 - ・(株)日経カルチャー
 - ・(株)阪急トラベルサポート
 - ・(株)阪急阪神ビジネストラベル
 - ・阪神トラベル・インターナショナル(株)
 - ・(株)ホップス
- 〈海外現地法人〉
- ・阪急国際旅行社(中国)有限公司(HANKYU INTERNATIONAL CHINA CO., LTD.)
 - ・HANKYU TRAVEL INTERNATIONAL EUROPE S. R. L.
 - ・HANKYU TRAVEL INTERNATIONAL SINGAPORE PTE. LTD.
 - ・HANKYU TRAVEL INTERNATIONAL EUROPE UK LTD.
- 〈海外駐在員事務所〉
- ・HONOLULU LIAISON OFFICE
 - ・HO CHI MINH LIAISON OFFICE

国際輸送事業

- ・(株)スカイパッキング
 - ・(株)阪急阪神ロジパートナーズ
- 〈海外現地法人〉
- ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(USA) INC.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS MEXICO S.A.DE C.V.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(DEUTSCHLAND) GMBH
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(UK) LIMITED
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(NETHERLANDS) B.V.
 - ・INTRASPEED SOUTH AFRICA (PTY) LTD.
 - ・INTRASPEED ARCPRO (KENYA) LIMITED
 - ・INTRASPEED EAST AFRICA LIMITED
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(BEIJING) CO., LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN INTERNATIONAL LOGISTICS (SHANGHAI) CO., LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(SHANGHAI) CO., LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(GUANGZHOU) LIMITED
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(HK) LIMITED
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(TAIWAN) LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(KOREA) CO., LTD.
- 〈海外駐在員事務所〉
- ・HANKYU HANSHIN EXPRESS SOUTHEAST ASIA PTE. LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(SINGAPORE) PTE. LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(THAILAND) CO., LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(MALAYSIA) SDN. BHD.
 - ・HANKYU LOGISTICS(M) SDN. BHD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS PHILIPPINES, INC.
 - ・HANKYU HANSHIN LOGISTICS PHILIPPINES INC.
 - ・HANKYU CUSTOMS BROKERAGE INC.
 - ・PT. HANKYU HANSHIN EXPRESS INDONESIA
 - ・PT. HANKYU HANSHIN LOGISTICS INDONESIA
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(VIETNAM) CO., LTD.
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS INDIA PRIVATE LIMITED
 - ・HANKYU HANSHIN EXPRESS(MYANMAR) CO., LTD.
 - ・HOT Logistics Co.,Ltd.
- 〈海外駐在員事務所〉
- ・MILANO OFFICE
 - ・DUBAI OFFICE
 - ・MOSCOW OFFICE
 - ・PHNOM PENH OFFICE

ホテル事業

- ・(株)天橋立ホテル
- ・(株)有馬ビューホテル
- ・(株)呉阪急ホテル
- ・京浜サービス(株)
- ・第一ホテルサービス(株)
- ・(株)阪神ホテルシステムズ

その他の事業

- ・(株)あしすと阪急阪神
- ・(株)いきいきライフ阪急阪神
- ・(株)池田名店街
- ・オーエス(株)
- ・関西テレビ放送(株)
- ・神戸電鉄(株)
- ・(株)ステーションネットワーク関西
- ・中央電設(株)
- ・(株)東京楽天地
- ・(株)鳥取砂丘会館
- ・阪急コンストラクション・マネジメント(株)
- ・阪急産業(株)
- ・(株)阪急阪神カード
- ・(株)阪急阪神ビジネスアソシエイト
- ・(株)阪急阪神フィナンシャルサポート
- ・阪急阪神保険サービス(株)
- ・(株)阪急阪神ポイント
- ・(株)阪急メディアアクセス
- ・阪神園芸(株)
- ・(株)ハンシン建設
- ・(株)ライフデザイン阪急阪神
- 〈その他の団体〉
- ・公益財団法人 阪急文化財団